



熊本工業高等学校野球部OB

本多大介さん

ほんだ・だいすけ 1978(昭和53)年生まれ。桜山町出身。四中卒業後、熊本工業高校へ進学。第78回(1996年)全国高等学校野球選手権大会準優勝。JR九州に勤務し、福岡市在住。趣味はゴルフ

「自分のバットで全国優勝を決める」。延長10回裏、1アウト満塁サヨナラの場面、3番打者の本多大介選手(夏甲子園)は、県勢初優勝(夏の甲子園)という県民の悲願を乗せ、ライト方向へ高く舞い上がりました。外野手の捕球と同時に3塁ランナーがタッチアップし本塁へ。熊本工業の全国制覇を誰もが信じた次の瞬間、外野手からの好返球でホームベース上はクロスプレーとなり無情にも「アウト」の判定。『奇跡のバックホーム』として、高校野球の長い歴史の中でも、特に名勝負と語り継がれるこの決勝戦は、松山商業(愛媛県)の優勝で幕を閉じました。

あの夏から20年。熊本地震の復興を支援しようと、昨年11月26日、全国を熱狂させた両校の当時の選手たちが藤崎台県営野球場に集まり、再戦が実現しました。多くの高校野球ファンが訪れ、試合に出場した本多さんは、「生涯の仲間に出会わせてくれた野球を通じて、少しでも恩返しができると思います。」と話しました。

試合は9-8で熊本工業が勝利し、選手たちは互いの健闘をたたえあいました。

父親の勧めで小学生から野球を始めた本多さん。高校進学の際、県外の強豪校からも誘いがありましたが、「熊本県代表として甲子園へ」との強い思いで、県内の伝統校である熊本工業へ入学しました。

上級生には、中日ドラゴンズで活躍する荒木雅博選手がいるなど、入部当初はレベルの高さに驚きましたが、「継続は力なり」を信じ、憧れの甲子園を目指して猛練習に励みました。そして迎えた最後の夏、チームの主軸として、甲子園出場の目標を達成し、全国準優勝を果たしました。

「野球が心身ともに鍛えてくれました。社会に出てからも貴重な財産となっています。」と本多さん。野球を通して人間関係の重要さも学びました。「自分の人生の原点でもあった小学生の子供たちに、目標を持ち努力し続けることの大切さを含めて、野球を教えたいですね。」と目を輝かせます。



1 再戦前の記念撮影。「白球がつないでくれた絆です。少しでも元気になってくれる人がいたらうれしいですね」と本多さん。みんなで記念のTシャツを制作し、収益を熊本地震の復興へ寄付しました 2 両親、弟と小岱山ハイキング。右端が本多さん 3 決勝戦10回裏1死満塁の場面、甲子園の歴史に残る一振りでした 4 甲子園準優勝を県知事に報告

